



# 季刊 すまいる



冬の味覚の代表選手、松葉ガニ(スワイガニ)。間人漁港(京丹後市丹後町)で水揚げされたものを「間人ガニ」と呼ぶ。豊かな漁場に近く、基本的に日帰り操業が中心なので鮮度が良く、生きたままセリに出すことができる。新鮮で身の詰まった高品質なガニとして人気が高い。水揚げ量が少ないため、幻のカニとも言われる。

## たいぎ 間人ガニ



江戸時代、三十三間堂の軒下(約120メートル)で、諸藩の武士たちが弓の技を競い合った「通し矢」。現在は「大射大会」として毎年、成人式に近い日曜に開催され、全国から約二千人が参加する。特に新成人が暗れ着姿で矢を放つ姿は、凛とした中にも華やきがあり、二月の風物詩となっている。

## 通し矢

(三十三間堂)

花の少ない冬、鮮やかな実をつける「千両」は古くから観賞用として愛好されてきた。センリョウ科の常緑低木で、赤い実のほか、黄色の実をつけるキミノセンリョウや斑入りの品種も。同じように実をつける万両やアリドオンシ(蟻通し)とあわせて「千両、万両、あり通し(いつもある)」と言われ、お正月の縁起ものとして用いられる。千両は実が上向きに、万両は下向きにつく。

## 千両

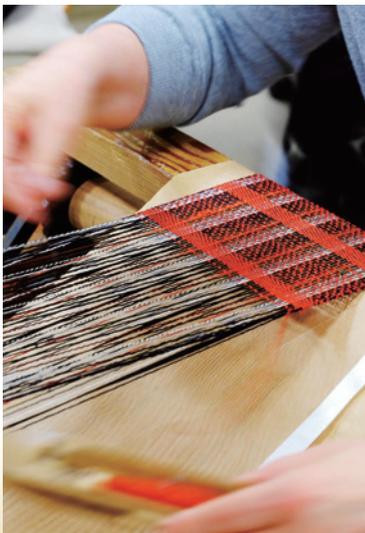


江戸時代・安永年間に、青蓮院宮が長崎から持ち帰った里芋の種を栽培させたのが始まりとされる伝統野菜。そのある形と表面の縞模様がその名の由来。肉質のキメが細かく、中までよく味が染み込むので、煮物やおでんなどにぴったり。棒ダラと炊き合わせた「いもぼう」は京の代表的なおばんざい。ビタミンB2が多く、低カロリーとされている。

## 海老芋

## 西陣織

西陣で生まれる多品種少量生産が特徴の先染の紋織物(染色した糸を用いて模様を織り出す)の総称。爪掻本織織(じまわりとすず)をはじめ、錦織、緞子など多様な品種があり、国の伝統的工芸品に指定されている。伝統の技を継承しつつ、着物や帯だけでなく、ネクタイやバッグ、インテリアなど幅広く展開。





## 年頭所感

医療法人啓信会 理事長

中野 博美

新年あけましておめでとうございます。本年も患者様のみなさま、地域住民のみなさま、そして啓信会の職員のみなさまにとつて素晴らしい年になることを希望します。

月並みな話ではありますが、本年4月の「診療報酬・介護報酬同時改定」に向けて昨年12月中旬に改定率が決定されました。診療報酬プラス0.55%、介護報酬プラス0.54%と、いわゆる技術料はどちらもプラスの改定となりました。診療報酬では前回2016年改定以来、治療の中心である急性期病院（特に公的病院）の疲弊が進行し、地域によっては医療提供体制にも支障が出ておりました。また介護におきましても2015年改定以降、他業界との処遇の違いから人材確保がままならず、多くの施設閉鎖や小規模施設の倒産が聞かれました。今回のプラス改定により、少なくとも今の状況から少しでも前に進んで行くことが出来ると感じています。ただ一方では、赤信号が点灯したままの我が国の財政状態をよく理解した上

で、我々医療人も我慢をすべきところは我慢をするのだと考えます。日本医師会の横倉義武会長は「過不足の無い医療提供体制をさせて頂きたい」と要請されております。我々自身も業務の効率化を考え生産性の向上を図っていかなくてはなりません。

さて、私共「医療法人啓信会」の施設は城陽市を中心として京都府「山城北医療圏」に広がっております。この山城北医療において過ぎること無く、しかし漏れることの無いよう医療・介護を進めて参りましたが、当初地域住民の方々から開設要請を受け、高く掲げた「献身と信頼」の心を今一度反芻して参りましょう。そして2003年京都市都きづ川病増築棟構造変更のとき、まだ地域医療構想という名称はありませんでしたが、京都市都きづ川病院では急性期（一般）病床を半分に減床しております。更に回復期リハ病床を新設しました。またその後には地域包括ケア病棟も開きました。また地域包括ケアシステム構築に向けては、医療部

門、在宅部門、介護部門、また地域の他施設とも協働することで、患者様お一人一人にきめ細かく利用をして頂ける体制をとることが出来ました。地域医療を考えると、地域医療構想と地域包括ケアシステムは車の両輪であります。地域のニーズに対して「過不足の無い医療提供体制」を構築し「包括的なケアシステム」で見守る姿勢が求められております。

本年もどうか宜しくお願い申し上げます。





# 新年のごあいさつ

医療法人啓信会

京都きつ川病院

院長

中川 雅生

新年明けましておめでとうございます。本年が、皆様にとりまして明るく希望に満ちた幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

さて、お正月はいかががお過ごしになりましたでしょうか。ご家庭でゆつくり過ごされた方、いや、千客万来でそれどころではなかったという方もおいででしょう。そのようなお正月に欠かせないのが「お節料理」ですね。祝い肴三種(三つ肴)、お煮しめ、酢の物、焼き物…。お雑煮と並んでお正月の食卓を飾るもので、文字通りお正月気分を味わえるものです。地方や家庭によって三つ肴は異なるようで、関西では、黒豆、数の子、たたきごぼうが一般的とされています。これにごまめが入るところもあるようです。紅白のかまぼこや伊達巻、棒鱈、栗きんとんにクワイ芋も定番ですね。「睨み鯛」といって、3日間お箸を付けない鯛の焼き物もあります。

これらの食品には、まめに働けるよう(黒豆、ごまめ)、子孫繁栄(数の子)、長く粘り強く(たたきごぼう)、芽が出るように(クワイ芋)というように語呂合わせで祈願がこめられ、縁起をかつが

れているのも正月らしいところです。考えてみれば、このお節料理、火を通したり干したり、焼いたり、あるいは酢につけ味を濃くするなど、日持ちするように工夫されています。正月の間、食物の入手が困難で、保存性が良いように工夫された、いわば先人の知恵の結集であったと考えられます。そもそも「おせち」は「御節供(おせつく、おせちく)」あるいは「節会(せちえ)」が転じたもので、中国から伝わった五節供(節句)、すなわち、人日(正月)、上巳(ひな祭り)、端午(こどもの日)、七夕、重陽(菊)の行事に由来するようです。この五節供でお祝いするすべての料理を言ったものが、のちに五節供のうち最も重要とされる1月7日(人日の節句)の正月料理のみをさすようになりま

した。三方などでめでたい食べ物を床の間に飾り、歳神様に捧げるとともに、年始の挨拶に訪れた来客にも振舞ったようです。

現在は重箱に詰められた正月料理をお節料理と呼んでいますが、重箱に詰められるようになったのは明治以降のことだと言われています。年末から食材を準備し、重箱に詰める作業を見て、迎春

を実感したものでした。最近では、小学生に「お節料理って知っている？」と尋ねたら、「お正月にホテルで出る料理」という答えがかえってくるそうです。時代は変わるもので、お節料理は家庭で作るものから外食するもの、デパートの食料品店や料亭で予約し宅配されるもの、そしてインターネットで購入するものに変わってきています。

このように時代は変わっていきませんが、私たちが京都市きつ川病院職員一同は、人とのふれあい、やさしさを忘れず、地域の皆様に健康と安らぎを提供すべく努力していく所存でございます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。



# これから主役となるであろう 地域一般病院(病棟)を考える

大量に開示・提供される情報の一部を見ながら

講師

石井公認会計士事務所所長・公認会計士

石井 孝宜氏



医療経営を専門に35年のキャリアを持つ公認会計士、石井孝宜氏をお迎えし、これからの医療を経済の情勢や病院経営の観点からお話しいただきました。

**2015年「少子、人口急減、超高齢」の  
現実化元年**

現在2017年、超高齢化時代は、少子人口急減・超高齢という言葉に変わったような気がいたします。比較的最近になって、2040年に実は高齢者人口そのものがピークアウトするという話になり、医療機関全体は減少するものの地域差が顕著というステージになっております。

**経済の地域格差を感じる出来事**

私の事務所が港区の虎ノ門にあり、一番近いホテルオークラが現在40階建てに全面建て替え中、その前には17階建ての虎ノ門病院がオープンする予定です。そこからほど近いところにも40階建ての虎ノ門ヒルズができました。これから5年間の間に虎ノ門ヒルズの界限だけで3つ40階建てができて、森トラストという会社が37階建てを今建て始めて、とてつもない超高層ビルラッシュになっています。そして事務所の近くでは毎日のように一番安くても3000万と言われているロールスロイスに出会えます。同じ車ではありません。一体全体何が起きている

んだらうと思います。つい数日前に買った本で、『今そこにあるバブル』という本が出ています。現在少なくとも東京はべらぼうに景気がいい。その方の本の書き出しは、六本木の交差点の深夜2時、30年前の夜が戻ったという記載なんです。ふっとその現実を見ながら、先ほど申し上げた少子、人口急減、超高齢ということとの整合性を考えてみました。北海道でも札幌から車でほんの1時間行くともうすっかりとしたへき地です。そういう意味では、少子、人口急減、超高齢というのは実感をするんですが、逆に東京にいと東京は人口が増えていますし、マンションが次々に建っていますし、オフィスビルも全面建て替えています。それらの建物は、一体何年使うんだらうと思います。

そういった高層ビル、鉄筋コンクリート、あるいは鉄骨のビルというのは大体50〜60年ですよね、ここから50年という2067年なんです。2040年に高齢者人口がピークアウトして、どうなるんだらうかと思えます。

実は地域差というのは非常に顕著です。今起きている現象を考えると、どう考えてもこの人口がべらぼうに減って、しかも高齢者だけになっていくというのはないんじゃないか。あつたとすると日本の経済は全部終わりにかかると思えます。

## 社会保障制度改革国民会議 報告書から

それは医療についても同じかもしれません。平成25年8月6日に提出された社会保障制度改革国民会議報告書からの一文では、医療はかつての病院完結型から地域完結型へ移行するんだと書かれています。それはなぜかという点、まさに超高齢化社会が来るからそういう形を取っていかざるを得ないんだろう。急性期の医療を中心に、人的物的資源を集中投入して、しかしながら入院を減らして、早期の家庭復帰、社会復帰を実現して、受け皿となる地域の病床や在宅介護を充実させていく必要があると謳っています。国全体としてこういう整理をしなければいけない。こうなってくるとなお



さらること、いわゆるゲートキーパーというふう言われているかかりつけ医の機能というのがとても重要になるんだらうと。そして極めて地域差が激しいので、ご当地医療の必要性が改めて確認されたという話になっています。したがって、病院の運営をされている事業者、当事者としては、このことに対するところの認識を、それぞれの地域単位でしっかりとっていたかなければいけないんだらうと感じております。

### 2015年、安倍政権が閣議決定した 医療・介護改革の方向

国全体としては2015年の安倍政権の「骨太の方針」の中に書き込まれたように、社会保障の中の医療介護提供体制の適正化に関しては、病床の機能分化と連携を進めると共に地域包括ケアを構築するというのが要約するとメインテーマだと思えます。ただ、これをする際において極めて重要なポイントとして認識しなければいけないのは、療養病床についての地域差の縮小と是正、外来医療費についても重複受診、投与、検査の適正化と地域差の是正を行い、都道府県の1人当たり医療費の差を半減させることを目指すと書いてあります。

### 経済財政運営と改革の基本方針 2017・見える化

2015年の骨太の方針にも書かれてい

たように、基本的には地域差の是正を医療についてやりたいという流れがあつて、今年2017年6月9日に閣議決定された「骨太の方針」の中にも同じようにいろんな整理が行われています。その中の1つ、改革に向けた横断的事項、経済・財政一体改革の進捗・推進の中に、医療介護分野等における給付の実体や診療行為の地域差等を明らかにする「見える化」を徹底して行うと、こういう記述がなされています。

今年4月28日の内閣府の経済・財政一体改革推進委員会というところで提示をされた資料によると、「見える化」への取り組みの進展というのが表題にしてあります。「見える化」が進むことで地域格差が一体何をもって生まれているかということがわかってきました。

K664胃瘦造成術やE202・2MRI撮影などのビッグデータもすでに存在しているし、「見える化」というのも確かに行われているんだな。やはりはつきりと言昔とは違う時代性というのが出てきているというのが実感です。もうデータというのは本当に見ようと思えば、いろんなものが見える時代です。都市の生活も含めてでありますけれども、一度見えてしまったものはもう二度と隠せない、こういうことになりまして、「見える化」というのは1つ非常に大きな衝撃度を持っているというふうに思っております。

### 在宅医療と「住まい」の場を組み合わせた サービス提供体制の構築

平成20年の診療報酬改定に向けた資料として提出をされたものを見ると、療養病床を転換して、同一医療法人が診療所で居住系施設を運営するという整理の仕事をしたらどうですかという話でありまして、入口は高度急性期系だつたんですが、出口のほうは介護医療ではないですけれども、療養系病床の整理がどうなっていくんだらうか。賃貸住宅というものを中心で事業運営をするという方向に本当に整理をし直すのであれば、基本的には外科医がメスを折って高齢者医療をやるとか、あるいはそれ以上の劇的な意識変化をしていかなければならないというの思いません。そのあたりについては、もし療養病床をお持ちになつていて、特に介護療養病床をお持ちになつていたり、あるいは医療療養病床の中でも25対1などという医療区分の低いところをたくさんお持ちになつていて、これからどうしようかなというケースの場合はそもそも整理として医療施設から居住系施設へ転換するというのは、物事の考え方の整理を基からやり直すんだという意識をきちっと持っていたら、変化をする場合にはぜひしていただきたいというふうに思っております。

## 自院はどのタイプの病院か

まとめのようになりませんが、うちの病院はどのタイプなのか、人口構造の変動があつてどの地域に位置しているのか。当たり前のように総人口と高齢者人口の関係で増加減少の組み合わせを作ると4つです。総人口も高齢者人口も増加する地域、総人口は減少するが高齢者人口は増加する地域、総人口も高齢者人口も減少する地域、すでに総人口が大きく減少して高齢者人口も減少している地域があります。簡単に言うと、地域によっては今までと全く同じ価値観で同じ病床数のそこそこの規模のものを全面建て替えたとすると、やはり少し投資の回収はつらいのかなと思います。最初にお話しした、ロールスロイスが毎日見えるような東京で、人口がまだまだどんどん増えているところの話と、やはり違うでしょう。自分の地域はどのタイプなんだろう。これが入り口で、なおかつ例えば急性期の入院医療について考えると、医療制度の診療報酬の在院日数はやっぱりまだもう少し短縮だよねと。いろんな資料を見ると、そもそも同じ病気に対する対応の仕方が時代とともに変化していて、今までなら大きな手術をして3週間、4週間だった入院が2週間、10日で十分という時代でもあるわけです。慢性期の入院という観点からいくと、医



療制度や診療報酬はそもそも医療施設以外への大転換を要請したりしています。医療資源の投入量が少ないタイプの方たちに関して、やはり今後入院外での対応を基本にするという話になっていました。その構造変化をどういうふうにかえていくか。精神科も地域医療計画の中に入ってしまった関係もあるようです。昔は、歴史的長期在院患者つて文学的表現だったんですけども、最近は重度かつ慢性でないタイプの再評価ということ、施設入所者の地域生活への移行8万人なんてことも言われており、これから精神科もかなり大きな構造変化の時代に入るんだと思います。人口構造の急激な変化があつて、在院日数のさらなる短縮政策があつて、医療技術の進歩があつて、医療と介護のビッグデータを活用した「見える化」が行われて、そしてなおかつ医療サービスや介護サービスを受ける受け手側の価値観の変化とい

うのもあるようで、そういうものが相乗的に効果を発揮して、病院に対して影響を及ぼすということになりますので、やはり今までと同じというのは無理だということだけはぜひ理解をしていただきたい。今日の前の医療だけをやっていたのでは全く無理です。周りを見ながら、制度を見ながら、時代の変化を見ながら対応していかないとついでいけない時代になっています。

## 介護老人保健施設の明確化と終わりに

8月4日の社保審の介護給付部会の資料を見ると、介護老人保健施設の役割が地域包括ケア強化法によって介護老人保健施設の介護保険法上の定義が変わりました。2018年4月1日から施行される今年6月2日に交付された法律は、介護老人保健施設は要介護者であつて、主としてその心身の機能の維持回復を図り、居宅における生活を営むことができるようにするための支援が必要である者に対してさまざまなことを行う施設であると。まさしく在宅復帰と在宅療養支援のための地域拠点、リハビリテーションを提供する機能をきちつと持つ役割を担う施設としての性格だということに書いてあるので、そのあたりをどのように整理・整合するのかということ。

最後となりますが、病院経営は実は私

はますますこれからは資金繰りの時代が来るんだというふうに感じております。病院はコストの大部分が固定費ですから、キャッシュフローがきちんと持続しているかどうかということに関しての評価もぜひ怠らず来年の来たるべき大変化に準備をしていただきたいと思います。

2017年9月2日、京都ホテルオークラで行われた「京都きつ川病院 秋の文化講演会」の内容を抜粋して掲載させていただきました。

## 石井 孝宜

1954(昭和29)年 東京都出身  
医療経営に従事34年



### 政府の委員等 <一部の実績>

- ・厚労省・社会保障審議会・臨時委員(年金事業監理部会委員)
- ・中医協・診療報酬調査専門組織(コスト分科会並びに消費税分科会)委員

### 病院団体の役員・委員等 <現職のみ>

- ・(研)国立国際医療研究センター 監事
- ・(一社)日本病院会 監事
- ・(一社)日本医療法人協会 監事
- ・(公社)全日本病院協会 参与
- ・(公社)日本医師会 税制検討委員会委員
- ・(一社)日本社会医療法人協議会 監事
- ・(公社)日本人間ドック学会 監事
- ・(一社)日本医療・病院管理学会 監事
- ・(一社)MEJ 監事

### 地方自治体の経営委員 <過去の実績>

- ・(独)国立成育医療研究センター 監事
- ・沖縄県医療審議会(専門委員)
- ・横浜市立病院経営委員会
- ・松戸市病院事業経営改革評価委員会

## Profile

楽しく健康  
づくりの  
第一歩を!

# 第14回 健康まつり 開催

京都きづ川病院 文化月間行事



木々が鮮やかに色づいた11月19日、京都きづ川病院では「健康まつり」を開催しました。職員一同と地域のみなさんが一体となって、年に一度のおまつりを盛り上げました。

## 健康測定

血管年齢・骨密度・脳年齢・肌年齢  
・血圧を測定できる大人気コーナー



脳年齢測定中

## 健康相談

お薬・介護・栄養相談と  
レントゲン質問のコーナー



## 腰痛・肩こり教室

リハビリスタッフ  
による教室



皆で体を動かしました

## 子どもコーナー

子どものためのお仕事体験や  
ものづくり体験コーナー



お菓子を使って  
薬剤師体験



城陽市イメージキャラクター  
「じょうりんちゃん」も登場!

## 模擬店・喫茶

職員手づくりの美味しい  
たこ焼き、ベビーカステラ



衣裳も着替えて  
看護師に



プラバンアート  
などを手づくり



笑顔でお迎いの  
喫茶コーナー

## 子ども交通教室

城陽警察署



白バイに乗って  
記念撮影

## 合唱コンサート

京都府立  
西城陽高等学校合唱部



エンジェルボイスに  
大きな拍手

## 出張 五里五里市

JA京都やましろ  
農産物直売所城陽店



新鮮野菜が大好評

## サクソ演奏&マジック



パルーンアートも



城陽警察署の  
お二人の熟演!



300名以上のご来場の皆様、  
ご協力いただいた地域の皆様、  
ありがとうございました!

病院内の行事や予定などのお知らせです。  
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、  
ぜひご覧ください。

啓信会

ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>



啓信会グループ

理事長 中野 博美

京都きづ川病院

院長 中川 雅生

TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

医療法人啓信会  
介護老人保健施設

萌木の村

<城陽市寺田奥山1-6>

施設長 大隅 喜代志

TEL .0774-52-0011

FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会  
介護老人保健施設

ひしの里

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>

施設長 横田 敬

TEL .0774-43-2626

FAX.0774-43-2627

医療法人  
啓信会

きづ川クリニック

<城陽市平川西六反44>

院長 青谷 裕文

TEL .0774-54-1113

FAX .0774-54-1115

関連施設

- 京都四条診療所 ● 四条健康管理センター

在宅サービス

- 訪問看護ステーション きづ川はろー
- ヘルパーステーション 萌木の村 21
- ヘルパーステーション リエゾン大津
- ヘルパーステーション リエゾン大久保
- ヘルパーステーション リエゾン四条
- ヘルパーステーション リエゾン健康村
- ヘルパーステーション リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン健康村
- デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- デイサービスセンター リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
- 居宅介護支援センター 萌木の村
- 居宅介護支援センター リエゾン四条
- ケアプランセンター リエゾン健康村
- ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
- ケアプランセンター リエゾン羽束師

- ケアプランセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

- 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
- 小規模多機能ホーム リエゾン健康村
- 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
- 小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
- 小規模多機能ホーム リエゾン宇治おおくぼ
- グループホーム リエゾン萌木の村
- グループホーム リエゾンくみやま
- グループホーム リエゾン健康村
- グループホーム リエゾン羽束師
- グループホーム リエゾン宇治おおくぼ

サービス付き高齢者向け住宅

- サービス付き高齢者向け住宅 えがお

教育部門

- ケアスクールリエゾン 大久保校
- ケアスクールリエゾン 大津校



医療法人

啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119

URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>